拈華微笑

ねんげみしょう

青木 裕次
（元青森県立北斗高校校長）

『幸あり』

今年の夏は、本当に暑さが厳しく長く続きました。水道料を気にしながら、毎日の水遣りに時間を費やしたことが思い出されます。日中の暑さで、ぐったりとした葉も、散水すると見る見るうちに葉をしゃきっとさせるのです。勿論、散水する水は水道水です。日本では、調理・風呂・シャワー・トイレ・手洗い・洗濯は全て水道水ですが、このような国は少ないのです。国土交通省のデータでは、水道水をそのまま飲める国は、世界で十カ国ほどだそうです。

世界初の有人宇宙飛行に成功したユーリイ・ガガーリンの言葉「地球は青かった」は有名です。地球は三分の二が水で覆われた惑星であることを象徴する言葉ですが、その水の中で淡水はたった2・5％しかないのです。しかも、その大半が北極・南極の氷なのですから、淡水が身近に存在することは、幸福そのものと言えます。世界の人口は80億人を超えていますが、その内の22億人が安全に管理された飲み水を得ることが出来ないそうです。私達が水道水を当たり前のようにして飲み、料理に使い、食器を洗い、顔を洗い、風呂を沸かし、水洗トイレに使用する日常生活は、とても有り難いことなのです。しかし、その有り難みが当たり前で、多くの人達は感謝することを忘れて過ごしています。

水道のことも然り、私達は日常生活の基本的な部分の殆どが、当たり前と思って暮らしていますが、果たして本当にそうなのでしょうか。

新宿の街を歩くと、路上生活者の方に会います。その人達は、夏の暑い時期、汗をかいてもシャワーを浴びることは勿論、体を拭くことさえ儘ならぬことは容易に想像がつきます。寒い冬も過酷で、凍死と紙一重の夜を過ごして朝を迎えているのです。しかし多くの人は、暑い夜はクーラーをつけたり扇風機を回したりしながら、蚊の対策も整えて睡眠をとります。寒い夜は、ぬくぬくとした夜具に包まれながら安眠しているのです。食事についても高級なものを欲するのでなければ、一日に三食ちゃんと頂き、空腹を満たしています。そればかりか、テレビを観れば、グルメ番組が軒を並べ、贅沢な食事を煽り立てています。そして大食いだの、何かのお祝いに飲み物をかけ合う光景が目に飛び込んできます。しかし、その反面、人知れずその日々の食事を抜かざるを得ない方々がいるのも紛れもない事実なのです。帰宅してから体を拭いたりシャワーを浴びたり湯船に浸かった後に、食事をしてお腹が満たされ、夜具に身を横たえて眠れることは、感謝に値する事なのです。

人は色々なものを欲しがります。家・土地や車、素敵な家具、身を包むお洒落な服や服飾品の数々。欲しいものはどんどんと増えて行きます。勿論お金はその代表的なもので、幾ら手に入っても、これで十分と思えず、更なる儲けを望むのです。人は地位も欲しがります。出来るなら名誉も頂きたいのです。私達は一体何を欲しているのかと言えば、自分に無いものを欲していると言った人がいますが、そのとおりだと思います。次々と欲しがる気持ちの中には、日々の些細な幸せを有り難いと思う気持ちや感謝する心は、芽生えないと思います。不足を「不足」を嘆くよりも、「知足」を知るべきだと思います。

向田邦子のエッセイの中で「神は細部に宿り給う」という言葉に出会いました。美味しい水道水が飲めて、安価で慎ましくとも美味しいものを頂き、シャワーなどを浴び、体を休める夜具に包まれて眠るささやかな生活に、大いなる幸があることを忘れずに生きて行きたいと、古希を過ぎて更に思う毎日です。

バックナンバーは本会ホームページでも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。